

施策展開の中核となる文化振興の方針的取組

1 アーツカウンシルしずおかの先進的な取組

・アーツカウンシル運営事業費助成

「アーツカウンシルしずおか」の活動により、すべての県民をつくり手として、社会の様々な分野でイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに寄与するため、地域資源の活用や社会課題に対応した住民主体の創造的な取組の活性化を図った。

・文化芸術による地域振興プログラム

アーツカウンシルしずおかでは、住民主体のアートプロジェクトを活性化するため、住民プロデューサーが、地域資源や社会課題を顕在化させ、地域活性化や課題への対応を目指す創造的なプログラムを募集し、採択したプログラムについて、経費の一部を助成するとともに、プログラム・ディレクター、コーディネーターが団体のニーズに応じた助言等の支援を随時行った。

年度	項目	採択件数
R 4 実績	地域クリエイティブ支援・地域始まり支援	19 件・12 件
R 5 予定	地域クリエイティブ支援・地域始まり支援	19 件・7 件

・マイクロ・アート・ワーケーション（住民プロデューサーの発掘）

アーツカウンシルしずおかでは、住民プロデューサーを発掘し、新たなアートプロジェクトの創出につなげるため、住民とクリエイティブ人材（アーティスト、アートディレクター、クリエイター等）が出会うきっかけをつくり、地域の魅力発信や、関係人口の増加に寄与することを目的に、クリエイティブ人材のワーケーションを促進した

年度	ホスト（地域住民との交流を支援する団体）	旅人（クリエイティブ人材）
R 4 実績	12 団体（まちづくり 7、交流 2、農山漁村 2、文化 1）	38 人（15 都府県）
R 5 計画	15 団体程度	40 人程度

2 「演劇の都」構想の推進

・「演劇の都」推進事業

県ではSPACの躍進を契機とし、演劇をテーマとした本県文化の活性化を図るため、令和3年7月に策定した「演劇の都」構想に基づき、県立劇団SPACを核として演劇に係る人材育成、県民交流、観光活用につなげる取り組みを推進した。

・SPAC演劇アカデミー

SPACでは人材養成を目的にSPAC演劇アカデミーの2期生を迎え、意欲の高い高校生に対し、SPACの俳優・スタッフ等による指導のもと、名作戯曲の上演に向けての稽古、教養と英語の学習等を行い、成果発表会を実施した。

年度	項目	修了者数
R 4 実績	SPAC演劇アカデミー（2期生）	15 人
R 5 計画	SPAC演劇アカデミー（3期生）	15 人

・SPACシアタースクールの実施

県内の中学1年生から高校2年生の子どもたちに、講義から実技、鑑賞を通じてより深く演劇を体験してもらうことを目的として、夏休み期間にシアタースクールを実施し、最終日にはその成果発表会を映像配信により行った。

年度	開催日	演目	参加者数	視聴者数
R 4実績	令和4年8月20日、21日	青い鳥	29人	403人
R 5計画	令和5年8月19日、20日	グスコーブドリの伝記	30人	—

・中学生・高校生舞台芸術鑑賞事業の実施

県内の中学生及び高校生に、本格的な劇場で優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することを目的に舞台芸術鑑賞事業を実施した。

年度	開催日	演目	公演数	鑑賞者数
R 4実績	令和4年10月～令和5年3月	「ペール・ギュント」ほか2演目	55公演	9,238人 (73校)
R 5計画	令和5年10月～令和6年3月	「伊豆の踊子」ほか2演目	59公演	16,394人 (111校)

3 「ふじのくに文化教育プログラム」の展開

・ふじのくに文化教育プログラムの作成

子ども向け事業の全てを1つのプログラムとして体系付け、学校に「ふじのくに文化教育プログラム」として提供するため、令和4年度に冊子を作成し、令和5年度から配布を開始した。

・ふじのくに子ども芸術大学の開催

子どもたちが文化や芸術に関心を持ち、更には理解を深めていく機会を提供するため、小・中学生を対象とする個人参加の体験・創造型講座を開催した。令和4年度には各分野の第一線で活躍する芸術家等が講師となる29講座を実施し、655人が受講した。

年度	項目	講座数	参加者数
R 4実績	実行委員会企画型講座(特別講座)	17	364人
	文化団体等公募型講座	12	291人
R 5計画	実行委員会企画型講座(特別講座)	12	385人
	文化団体等公募型講座	12	370人

・音楽プログラム・演劇プログラム

子どもが多様な文化と出会い、体験する機会を拡大するため、県内プロオーケストラ及びSPACによる地域でのアウトリーチや鑑賞機会の増加に向けた取組を実施した。

年度	項目	実施回数	参加者数
R 4実績	音楽：富士山静岡交響楽団/シンフォニエッタ静岡	23回	5,734人
	演劇：SPAC	25回	2,139人
R 5計画	音楽：富士山静岡交響楽団/シンフォニエッタ静岡	21回	—
	演劇：SPAC	23回	—

重点施策I

世界に輝くしずおかの文化芸術の振興

○重点施策の目的・ねらい

富士山をはじめとする本県の優れた文化資源の魅力を磨き、新しい価値を創造し、その価値を普及することにより、本県に住むことに誇りを持てる文化環境を整えるとともに、その魅力を国内外に発信することにより、定住人口はもとより、関係人口・交流人口の拡大につなげていきます。

○進捗状況

・静岡県舞台芸術センター事業費助成

本県の舞台芸術の振興を図るため、優れた舞台芸術作品の制作と公演、教育・普及、及び人材育成など舞台芸術を一貫して推進する(公財)静岡県舞台芸術センターに対し支援を行った。

年度	内 容	作品数、鑑賞者数
R 4 実績	ふじのくににせせかい演劇祭2022(令和4年4月29日～5月8日)	4作品、1,686人
R 5 実績	ふじのくににせせかい演劇祭2023(令和5年4月29日～5月7日)	5作品、1,873人

・「演劇の都」推進事業【再掲】

県ではSPACの躍進を契機とし、演劇をテーマとした本県文化の活性化を図るため、令和3年7月に策定した「演劇の都」構想に基づき、県立劇団SPACを核として演劇に係る人材育成、県民交流、観光活用につなげる取り組みを推進した。

・アーツカウンシル運営事業費助成【再掲】

「アーツカウンシルしずおか」の活動により、すべての県民をつくり手として、社会の様々な分野でイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに寄与するため、地域資源の活用や社会課題に対応した住民主体の創造的な取組の活性化を図った。

・国際オペラコンクール開催事業

本県ゆかりのプリマドンナ三浦環をたたえ、その業績を顕彰するとともに声楽界における有望な若手人材を発掘・育成し、国際交流を通して内外との連携を深め、世界に広がる「しずおか文化」を創造するため、平成8年以来、3年に1回コンクールを開催している。令和4年度は、次年度開催に向けた機運醸成を目的とした取組を行った。

令和5年度は、10月28日(土)～11月2日(木)に一次予選、二次予選を行い、11月5日(日)に本選・表彰式を実施予定。

実施日	令和5年10月28日(土)～11月5日(日)
会 場	アクトシティ浜松大ホール
応募者数	271人(33の国と地域：日本人113人)
予備審査通過者数(参加承認者数)	76人(15の国と地域：日本人23人)

・音楽文化創造・発信事業

本県の音楽文化振興のため、県域オーケストラとして活動を展開する富士山静岡交響楽団に対して支援を行った。

年 度	R 4 実績	R 5 計画
定期演奏会	10 回	11 回
定期演奏会への小中高校生招待	519 人	500 人程度
高齢者、障害者等への鑑賞機会提供	8 回	10 回程度

・第 26 回伊豆文学賞・伊豆文学塾の開催

文学の地として名高い伊豆・東部地域をはじめとして、多彩な地域文化を有する本県の特徴を活かし、心豊かで文化の香り高いしずおかづくりの推進による多彩で魅力ある文化の創造と情報発信のため、伊豆文学賞等を開催した。

R 4 実績	募集期間	令和 4 年 5 月 1 日～9 月 30 日（掌篇部門は 9 月 16 日まで）
	応募数	415 件（小説 199 件、随筆 28 件、紀行文 14 件、掌篇 174 件）
	最優秀賞	小説・随筆・紀行文部門：「水色の風」吉川 道廣（静岡県） 掌 篇 部 門：「星」 白山 桃子（東京都）
R 5 計画	募集期間	令和 5 年 5 月 1 日～10 月 1 日（掌篇部門は 9 月 17 日まで）

・「富士山の日」記念行事

静岡県・山梨県共催により、新型コロナウイルス感染症への感染防止対策を行った上で、令和 5 年 2 月 23 日に「富士山の日フェスタ 2023」を開催した。

実施日	令和 5 年 2 月 23 日（木・祝日）
会場	プラサヴェルデ（沼津市）
参加者	国会議員、富士の国づくり推進会議役員、県議会議員・議員、市町長・議長、富士山世界文化遺産協議会関係者ほか 約 350 人
主な内容	・富士山世界文化遺産登録 10 周年イヤー開幕セレモニー ・東アジア文化都市宣言 ・SPAC 演劇「羽衣」 ほか

・富士山世界文化遺産登録 10 周年記念式典

令和 5 年 6 月 22 日、富士山が世界文化遺産に登録されて 10 周年となることを記念し、富士山世界文化遺産協議会、静岡県、山梨県の共催で、東京都内にて記念式典を開催した。

実施日	令和 5 年 6 月 22 日（木）
会場	東京国際フォーラム（東京都千代田区）
参加者	国会議員、両県議会議員・議員、市町長・議長、国関係者、富士山世界文化遺産協議会関係者（220 人）・一般公募者（130 人） 計 350 人

主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・両県知事による富士山世界文化遺産登録10周年共同宣言 ・基調講演：世界遺産としての富士山 講師：富士山世界文化遺産学術委員会 青柳正規 委員長 ・パネルディスカッション「富士山から発信する持続可能な社会の実現」ほか
------	--

・富士山世界遺産登録10周年記念国際シンポジウム「世界の聖なる山と富士山」

富士山が世界遺産登録10周年を迎えることを契機に、世界遺産に登録されている世界の山岳の研究者等を招聘して、研究成果などを発表する講演や富士山を含む各山との比較に関する討論を行う国際シンポジウムを開催した。

実施日	令和5年7月1日（土）から3日（月）まで
会場	7月1日、2日：富士市文化会館ロゼシアター 小ホール 7月3日：静岡県富士山世界遺産センター及び富士山本宮浅間大社ほか
参加者	富士山保全管理関係者、富士山及び世界遺産の研究者又は関連学生、聴講希望者 ・7月1日（222人）、2日（133人）、3日（19人）
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・7月1日：基調講演、富士山関連講演（総括）、静岡県富士山世界遺産センター5年の研究成果及びイタリアの聖なる山についての講演 ・7月2日：トンガリロ山（ニュージーランド）、泰山（中国）について講演、パネルディスカッション ・7月3日：関係者向けエクスカージョン

・しずおか遺産による文化財活用事業

「しずおか遺産」は、本県の歴史文化に対する県民の理解を深めるとともに、魅力ある歴史文化資源として磨き上げ、観光利用につなげることを目的に、本県の魅力ある歴史文化資源を紹介するストーリーを県が認定する制度として令和4年度に創設した。令和4年度は、3件の遺産を認定した。

タイトル	関係市町（※代表市町）
近代教育に情熱をかけたしずおか人の情熱	磐田市※・菊川市・森町・松崎町
秋葉信仰と街道	浜松市※・湖西市・磐田市・袋井市・森町・掛川市・菊川市・牧之原市
文学の聖地「伊豆」と温泉 ～癒しを求めた文豪たち～	伊豆市※・河津町・熱海市・伊豆の国市・伊東市

・文化財データベース（「しずおか文化財ナビ」）の作成

県内に所在する国・県指定の文化財をデータベースとして適切に管理するとともに、所在地や概要等の基本的な情報を「しずおか文化財ナビ」として県ホームページ上に公開した。

・ふじのくに民俗芸能フェスティバル

無形民俗文化財の保存に向けた県民意識の高揚や、伝承者のモチベーションの向上を図るため、静岡県文化財団、静岡県観光協会、静岡県文化財保存協会、静岡県の4者で設立した「ふじのくに無形民俗文化財活性化実行委員会」の主催で、県民に周知・鑑賞する場を提供する「民

「俗芸能フェスティバル」を開催した。

実施日	令和5年2月26日（日）
会場	静岡市民文化会館大ホール（静岡市）
参加者	419人
主な内容	<p><出演芸能>・徳山の盆踊（川根本町）、静岡浅間神社廿日会祭の稚児舞楽（静岡市）、西浦の田楽（浜松市）ほか</p> <p><展示> ・「徳山の盆踊」で使用する衣装・用具の展示</p>

・魅力ある文化資源の観光活用推進事業費

県では、本県の魅力ある文化資源を、ガストロノミーツーリズム等の新たな旅行コンテンツと連携して活用することにより、県内の食・文化・景観をPRし、従来文化施設を訪れることが無かった層の来館者を増やすことに繋がる取組みを推進した。

年度	内 容	会 場	参加者
R 4 実績	SPAC オリジナル劇×そば打ちパフォーマンス等	舞台芸術公園	23名 ※台風のため中止・縮小
	有名シェフと学ぶガストロノミーツーリズム等	地球環境史ミュージアム	約240名
	県産食材を使用したレストランメニューの提供等	県立美術館	約850名
R 5 計画	コラボ企画監修 SPAC と食のコラボイベント等	舞台芸術公園	—
	東アジア食彩フェスタ（仮称）等	グランシップ	—
	食文化を学べる常設展などの拡充等	地球環境史ミュージアム	—
	県産食材を使用したレストランメニューの提供等	県立美術館	—

・静岡県・浙江省友好提携事業

静岡県と浙江省の友好提携40周年を記念して、現代舞踊及び浙江省の魅力発信につながる作品の制作、発信する事業を実施した。

・朝鮮通信使記念茶会

日韓善隣友好の象徴であり、静岡県の歴史的な文化遺産である朝鮮通信使の意義を顕彰するため、第1回朝鮮通信使が駿府の徳川家康公に謁見した日（6月20日）にちなみ、通信使一行が投宿した清見寺において、茶会を開催した。

年度	区分	参加者
R 4 実績	亭主	茶道裏千家 静岡県知事
	正客	駐横浜韓国総領事 尹喜榮（ユン・ヒチャン）氏
	次客	徳川宗家第18代当主徳川恒孝氏御子息 徳川 家広氏
R 5 実績	亭主	茶道裏千家大宗匠 千 玄室氏 静岡県知事
	正客	韓国・忠清南道知事 金泰欽（キム・テフム）氏 駐横浜韓国総領事 金玉彩（キム・オクチェ）氏
	次客	徳川宗家第19代当主 徳川 家広氏

重点施策2

社会の多様な担い手による創造的な活動の推進

○重点施策の目的・ねらい

多様な人々が多様な価値を認め合う共生社会の実現に向けて多くの県民の文化芸術活動への参加を促し、文化芸術を活用した創造性ある活動を、社会や地域の様々な分野に広げていきます。

○進捗状況

・ふじのくに芸術祭 2022(第62回静岡県芸術祭)の開催

通年型の総合芸術祭として「ふじのくに芸術祭 2022(第62回静岡県芸術祭)」を開催し、芸術作品の発表や鑑賞をする機会を広く県民に提供し、本県文化の向上発展を図った。

主な内容	参加者数・応募点数	入場者数
美術展・写真展・書道展	1,072点	5,631人
文芸コンクールほか	7,944点	—
合唱コンクール、演劇コンクール、舞踊公演、邦楽演奏会	1,253人	4,189人
華道展	34人	347人

また、美術部門優秀作品展として、ふじのくに芸術祭美術部門各種目の優秀作品77点(入賞作品72点、招待作品5点)を一堂に集めた展覧会を開催した。(鑑賞者数410人)

・静岡県障害者芸術祭の開催

障害のある人に、文化・芸術活動の機会を提供するとともに、芸術を通して、障害福祉への理解と関心を高めることを目的に、第24回静岡県障害者芸術祭を開催し、障害のある人の作品展や相互理解を目的としたワークショップ等を実施した。

年度	内容・会場	日程	来場者数
R4 実績	作品展ほか：クリエート浜松(浜松市)	令和4年10月29日(土)～11月6日(日)	399人
	作品展ほか：県立美術館(静岡市)	令和4年12月14日(水)～12月18日(日)	518人
	作品展ほか：コミュニティながいずみ(長泉町)	令和5年2月10日(金)～2月12日(日)	289人
R5 計画	作品展ほか：クリエート浜松(浜松市)	令和5年9月30日(土)～10月5日(木)	—
	招待作家展ほか：県立美術館(静岡市)	令和5年10月25日(水)～11月5日(日)	—
	作品展ほか：富士ロゼシアター(富士市)	令和6年1月24日(水)～1月28日(日)	—

・ふじのくに芸術祭 2023(第63回静岡県芸術祭)の開催

令和5年2月19日に、グランシップにおいて、春の祭典を開催し、ふじのくに芸術祭2023を開催した。入場者数323人。

・アーツカウンシル運営事業費助成【再掲】

「アーツカウンシルしずおか」の活動により、すべての県民をつくり手として、社会の様々な分野でイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに寄与するため、地域資源の活用や社会課題に対応した住民主体の創造的な取組の活性化を図った。

・アーツカウンシルしずおかによるフォーラムの開催

アートプロジェクトによる地域経済の活性化を目指し、企業の力を住民の創造性を発揮する機会の創出や、社会的起業等に活かしてもらうため、令和3年度に「地域経済活性化モデル形成のためのパイロット事業」を行った企業を招き、クリエイティビティと地域のイノベーションについて考えるフォーラムを開催した。

実施日	令和4年11月2日(水)
会場	グランシップ6階交流ホール（静岡市）
参加者	188人(会場72人、オンライン116人)
主な内容	基調講演「地域の価値を高める企業経営」 講師：ACAO SPA&RESORT 株式会社 中野善壽 代表取締役会長 CEO トークセッション「クリエイティビティと地域のイノベーション」 パネリスト：中野善壽氏、西村やす子氏、間宮純也氏

・舞台芸術に関する活動の支援

SPACでは、県内を中心に演劇やダンス等の舞台芸術活動を行っている個人や団体の活動を支援し、県内の舞台芸術の振興を図るため、「SPAC県民月間・提携公演型」を実施した。また、県内の高校、大学等へ専属スタッフ等を講師等として派遣するとともに、他団体が行う舞台公演への出演や、技術・機材の支援を行った。

・第50回全国アマチュアオーケストラフェスティバル静岡大会

県は、県内外音楽団体の交流、連携促進と音楽文化の振興を目的に、令和4年9月2日から4日にグランシップで開催された、オーケストラ音楽を愛好する人々が県内外から集い、合奏技術を磨き演奏を披露する「第50回全国アマチュアオーケストラフェスティバル静岡大会」の開催を支援した。

・静岡県文化奨励賞の授与

芸術・学術を通じ本県の文化振興に寄与し、優れた業績を挙げ、かつ将来その一層の発展が期待される本人・団体として、3者（久保田翠（障害者文化芸術普及）、鈴木康広（現代美術）、静岡県演奏家協会（音楽文化普及））に対し、文化奨励賞を授与した。

年度	個人・団体
R4実績	久保田 翠（障害者文化芸術普及）
	鈴木 康広（現代美術）
	静岡県演奏家協会（音楽文化普及）

R 5 実績	戸崎 文葉 (音楽 (合唱指揮))
	前田 直紀 (美術 (陶芸))
	特定非営利活動法人クロスメディアしまだ (文化振興)

・ふじのくに文化財保存・活用推進団体の認定と表彰

令和元年度に策定した「静岡県文化財保存活用大綱」に基づいて、地域ぐるみの文化財の保存・活用の取組を活性化するために、県内で文化財の保存・活用の活動を行っている団体を「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」として認定する制度を令和2年度に創設した。さらに、令和3年度には、認定された団体の中から特に優秀な活動実績を残した団体を表彰する知事褒賞制度を創設した。

令和4年度は募集・審査の結果、8団体の認定と3団体の表彰を決定し、令和5年3月16日に「ふじのくに文化財保存・活用推進団体表彰式・認定書授与式」を開催した。認定団体は計69団体になり、そのうち計6団体を表彰している。

団体名	所 在
みしまのお寺めぐりの会	三島市
見付天神裸祭保存会	磐田市
特定非営利活動法人新居まちネット	湖西市

重点施策3

文化芸術に触れる機会の拡充と人材育成の促進

○重点施策の目的・ねらい

他者と共感し合うことができ、創造性に富んだ感性豊かな地域社会を形成するため、多種多様な文化を老若男女、国籍を問わず、生涯を通じて、また地域に関係なく誰もが、享受できる機会の充実を図るとともに、若者たちの感性や創造性を育む取組を進め、本県の次代の文化芸術を担う人材を育成します。

○進捗状況

・ふじのくに文化教育プログラムの作成【再掲】

子ども向け事業の全てを1つのプログラムとして体系付け、学校に「ふじのくに文化教育プログラム」として提供するため、令和4年度に冊子を作成し、令和5年度から配布を開始した。

・SPAC演劇アカデミー【再掲】

SPACでは人材養成を目的にSPAC演劇アカデミーの2期生を迎え、意欲の高い高校生に対し、SPACの俳優・スタッフ等による指導のもと、名作戯曲の上演に向けての稽古、教養と英語の学習等を行い、成果発表会を実施した。

・SPACシアタースクールの実施【再掲】

県内の中学1年生から高校2年生の子どもたちに、講義から実技、鑑賞を通じてより深く演劇を体験してもらうことを目的として、夏休み期間にシアタースクールを実施し、最終日にはその成果発表会を映像配信により行った。

・異才・天才・奇才すばっくこども大会の開催

SPACでは、子どもたちの感性あふれる表現力を育てるとともに、次世代の舞台芸術の担い手を育て応援するために、県内の小学生を対象として、歌唱、舞踊、演奏、その他様々な身体芸などの才能を発揮する「こども大会」を実施した

年度	開催日	演目	参加者数	視聴者数
R 4実績	令和5年3月18日、19日	ピアノ弾き語り、モダンバレエほか	72人	369人
R 5計画	令和6年3月	ピアノ弾き語り、モダンバレエほか	—	—

・中学生・高校生舞台芸術鑑賞事業の実施【再掲】

県内の中学生及び高校生に、本格的な劇場において優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することを目的として実施した。

・ふじのくに子ども芸術大学の開催【再掲】

子どもたちが文化や芸術に関心を持ち、更には理解を深めていく機会を提供するため、小・中学生を対象とする個人参加の体験・創造型講座を開催した。各分野の第一線で活躍する芸術家等が講師となる29講座を実施し、655人が受講した。

・音楽プログラム・演劇プログラム【再掲】

子どもが多様な文化と出会い、体験する機会を拡大するため、県内プロオーケストラ及びSPACによる地域でのアウトリーチや鑑賞機会の増加に向けた取組を実施した。

・県庁障害者アート空間化・まちじゅうアートの推進事業

県では、障害のある人の文化芸術活動への理解及び作者本人の創作意欲の向上と経済的な自立を促進するため、障害のある人の作品を有償で借り受け、作者に還元するモデル事業に取り組んだ。庁内のほか、スーパーマーケット、信用金庫、病院等が延べ278枚を借り受けた。

・ふじのくに障害者芸術ポータルサイト「Findart(ふあいんだー)」の開設

県では、いつでも手軽に障害者芸術を鑑賞する機会を提供し、障害者芸術の魅力を広く発信するため、障害者芸術ポータルサイトを開設した。

これまで分散していた県内の障害者芸術に関するサイトを統合し、さらに充実したコンテンツを提供することで、情報の集約化、発信力の向上を図った。

・文化財データベース(「しずおか文化財ナビ」)の作成【再掲】

県内に所在する国・県指定の文化財をデータベースとして適切に管理するとともに、所在地や概要等の基本的な情報を「しずおか文化財ナビ」として県ホームページ上に公開した。

・文化財オータムフェアの開催

県民の文化財に対する興味・関心を高めるため、10～11月に「ふじのくに文化財オータムフェア」と銘打ち、市町や文化財所有者の協力を得て県内各地で、様々な県内の文化財を活用した展示会、講演会等を取りまとめて広報した。県及び25市町の計80事業が参画し、290,525人の参加があった

・富士山 遊びと学びのイベント

例年、「富士山の日」記念行事の一環として、富士山の日を中心に、富士山こどもの国等をサテライト会場に位置付け、同施設管理者が実施する富士山の日協賛事業と連携しイベントを実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、同イベントに代えて、YouTube「ふじのくにメディアチャンネル」内の動画を活用したクイズ大会を実施した。

・“富士(ふじ)の国(くに)”づくりキッズ・スタディ・プログラムの推進

認定NPO法人富士山世界遺産国民会議及び山梨県と連携し、子どもたちが浮世絵を使った

授業を通じて、富士山の文化的価値を知ることができるよう平成 23 年に教材を作成した。全国の小学校等で活用してもらうため平成 29 年度に教材をデジタル化し、Web からのダウンロードによる利用を可能にして普及を図った。

重点施策4

文化芸術を振興する仕組みの充実

○重点施策の目的・ねらい

県内の文化活動がより一層活発化するよう、アーツカウンシルしずおかの設置を踏まえて、県内の各種文化施設や大学など、関係機関のネットワーク化や産業等の多分野との連携など、文化振興を効果的に推進できる体制や仕組みを構築します。

○進捗状況

・グランシップの管理運営

県は、グランシップの利活用の促進を図るため、自主企画事業、情報提供事業及び施設の維持管理事業を、指定管理者である(公財)静岡県文化財団に委託した。

・県立美術館の運営

県民に広く美術作品の鑑賞機会を提供するため、館蔵の多彩なコレクションや国内外からの優れた美術作品を活用して、魅力的な展覧会を開催し、県の芸術文化の振興を図った。

年度	区分	期間等	観覧者数
R 4 実績	企画展（「兵馬俑展」ほか）	5 催事（計 226 日間）	89,194 人
	収蔵品展	通年	8,296 人
	移動美術展	1 会場（計 9 日間）	1,371 人
	展覧会観覧者数（合計）		98,861 人
R 5 計画	企画展（「センス・オブ・ワンダー」ほか）	4 催事（計 210 日間）	49,500 人
	収蔵品展	通年	12,000 人
	移動美術展	2 会場（計 20 日間）	10,000 人
	展覧会観覧者数（合計）		71,500 人

・県立美術館の評価

美術館の経営戦略に合致した効果的な事業を推進、継続的に経営の改善を行うため、事業・運営等の効果について、第三者評価委員会により多面的かつ客観的な測定、評価を行った。中立的な第三者、県民の視点から美術館の自己評価、及び県庁の支援体制等に対する評価を受けた結果、来館者に対するサービスの改善を図ることができた。

・ふじのくに地球環境史ミュージアムの管理運営

郷土の自然史に関する資料を収集・保管し、次世代に継承するとともに、人と地球上の生態環境との関わりを歴史的に研究し、その成果を教育普及や展示に活用することにより、県民の教育、学術及び文化の振興を図った。

区 分	期間等	観覧者数
常設展・企画展	計 309 日間	56,225 人
ミュージアムキャラバン	31 会場(計 574 日間)	221,345 人
ミニ博物館	17 会場(計 484 日間)	136,033 人
展示観覧者数 (合計)		413,603 人

・埋蔵文化財センターの管理運営

埋蔵文化財は、静岡の歴史を考え、解明していく資料として重要である。その埋蔵文化財の調査研究、適切な保護及び普及公開により、地域固有の文化に誇りと愛着を持つ県民意識を醸成し、本県の文化向上を図るため、埋蔵文化財センターの管理運営を行った

区 分	観覧者数等
出土品公開・展示（常設展、巡回展3か所、静岡市立登呂博物館への出張展）	—
体験学習（授業と関連付けた土器分類等の体験活動、フェスタ埋文）	357 人
出前授業（県内学校等での歴史学習及び体験学習）	43 件
情報発信（遺跡調査報告会「ふじのくにの原像をさぐる」、歴史講演会）	150 人

・富士山世界遺産センターの管理運営

富士山に係る包括的な保存管理の拠点施設として、富士山の自然、歴史、文化等を研究し、その成果を活用し、展示や講座等を通じて情報発信することで、富士山の普遍的価値の後世への継承を図った

区 分	期間等	来館者・受講者数
常設展	337 日間	120,984 人
企画展（5回）（うち有料企画展（1回））	224 日間（53 日間）	(8,834 人)
公開講座	9 回	169 人
世界遺産セミナー	1 回	90 人
出前講座	78 回	5,437 人
特別講座	3 回	65 人
富士山世界遺産ガイド養成講座（更新）	—	63 人

・文化財保護活用地域計画作成支援

平成31年の改正文化財保護法施行により、市町は域内の文化財の総合的な保存・活用を図るため「文化財保存活用地域計画」を作成し国の認定を受けることができることとなった。

作成作業中の12市町については、市町で開催する作成協議会へ出席するとともに、適宜、助言を行った。このうち、伊豆の国市と富士市が令和4年7月、焼津市と袋井市が令和4年12月に国の認定を受け、県内の認定市町数は合計6市となった。

認定市町	R3 認定：磐田市、浜松市 R4 認定：伊豆の国市、富士市、焼津市、袋井市
作業作成中の市町	三島市、沼津市、富士宮市、静岡市、藤枝市、掛川市、小山町、森町

・静岡県障害者文化芸術活動支援センターの運営

県は、文化芸術活動に取り組む障害のある人や、その支援者等を支援するために、平成30年度に静岡県障害者文化芸術活動支援センターを開設した。障害のある人の文化芸術活動の普及を通じて、障害のある人の社会参加や、障害及び障害のある人に対する県民の理解促進を図った。

・せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」の開設

SPACでは、古代ギリシアから中世ヨーロッパのルネサンスを経て現代へと変貌してきた劇場建設について、時代とともに変化し、現代へと受け継がれてきた世界の劇場の歴史を詳しく紹介するミニミュージアム「てあとろん」を、令和5年4月1日、舞台芸術公園にオープンした。

・文化芸術による地域振興プログラム【再掲】

アーツカウンシルしずおかでは、住民主体のアートプロジェクトを活性化するため、住民プロデューサーが、地域資源や社会課題を顕在化させ、地域活性化や課題への対応を目指す創造的なプログラムを募集し、採択したプログラムについて、経費の一部を助成するとともに、プログラム・ディレクター、コーディネーターが団体のニーズに応じた助言等の支援を随時行った。

・マイクロ・アート・ワーケーション（住民プロデューサーの発掘）【再掲】

アーツカウンシルしずおかでは、住民プロデューサーを発掘し、新たなアートプロジェクトの創出につなげるため、住民とクリエイティブ人材（アーティスト、アートディレクター、クリエイター等）が出会うきっかけをつくり、地域の魅力発信や、関係人口の増加に寄与することを目的に、クリエイティブ人材のワーケーションを促進した

・アーツカウンシルしずおかによるフォーラムの開催【再掲】

アートプロジェクトによる地域経済の活性化を目指し、企業の力を住民の創造性を発揮する機会の創出や、社会的起業等に活かしてもらうため、令和3年度に「地域経済活性化モデル形成のためのパイロット事業」を行った企業を招き、クリエイティビティと地域のイノベーションについて考えるフォーラムを開催した。

持続可能な文化活動の推進

○重点施策の目的・ねらい

コロナ禍において明らかになった課題等を踏まえ、文化芸術が社会に果たしている役割を再認識し、様々な分野との連携を進めるとともに、活動・鑑賞方法の多様化などを一層促進し、あらゆる事態が生じても持続可能な文化活動のあり方を模索していきます。

○進捗状況

・県立美術館デジタルアーカイブ

来館者促進のため、県民がいつでもどこでも芸術作品や文化財等の文化資源に触れることができるデジタルコンテンツの拡充を進め、PR 情報を発信した。

収蔵品を中心としたデジタルアーカイブを制作し、コンテンツの充実を図った。

・富士登山における利用者負担制度の運用

平成 26 年度の夏山期間から本格導入した富士山保全協力金制度を運用し、富士山の 環境保全や安全確保等の事業に充当した。

・富士山世界文化遺産協議会の運営

富士山の保存管理及び整備活用並びにその周辺環境の保全を推進するため、例年、「富士山世界文化遺産協議会」及び「富士山世界文化遺産協議会作業部会」を開催するとともに、協議会に対し学術的な見地から資産及びその周辺環境の保全管理と整備活用について助言、報告を行う「富士山世界文化遺産学術委員会」を開催している。令和4年度は、協議会を1回、作業部会を2回、学術委員会を2回開催した。

・ふじのくに障害者芸術ポータルサイト「Findart（ふぁいんだー）」の開設【再掲】

いつでも手軽に障害者芸術を鑑賞する機会を提供し、障害者芸術の魅力を広く発信するため、障害者芸術ポータルサイトを開設した。

これまで分散していた県内の障害者芸術に関するサイトを統合し、さらに充実したコンテンツを提供することで、情報の集約化、発信力の向上を図った。

・VR映像を使った埋蔵文化財センター、ふじのくに地球環境史ミュージアム関連コンテンツの充実

ウィズコロナ・アフターコロナにおける新たな情報発信として、令和3年9月から埋蔵文化財センターのホームページ内に新たなコンテンツとして「しずまいVR館」を公開している。また、同年11月には、ふじのくに地球環境史ミュージアムにおいても「バーチャルミュージアム」を公開するなどのデジタル対応を行った。今後も魅力あるコンテンツの充実を図っていく。